

授業者	丸山祐也	日時・指導学級	12月12日(水) 6時間目 2年3組
教科	道徳	題材	残された水

【授業の目標】

- ・生命の尊さと社会における公平さの在り方について、友達の意見を聞く中で、多面的・多角的に考え、自分の納得のいく理由づけを行った結論を出す。

【授業の工夫】

- ・対立的に板書をすることで、自分とは違った立場の意見に着目し、それに対して自分の意見をもてるようにする。
- ・意見交流をして考えを深めるために、グループを作ってプリントを回し合い、各自の考えを書きこむ場を設定する。

【授業の様子・生徒の変容】

- ・様々な立場に立って考えたり、自分とは違う立場の友達の意見を聞いたりしたことで、今回の発問に対して、多面的・多角的に考え、自分なりの結論を出そうとする姿が見られた。
- ・苦しんでいるロイのために限られた量の水を「飲ませるべき」か「飲ませるべきではない」かで意見が大きく分かれた。友達の意見を聞く中で、再考し、意見が変わった生徒もいた。「目の前の苦しむ一人を助けること」と「平等に水を配ることで多くの命を助ける可能性を上げること」でどちらがよいか結論を出すことは難しそうであったが、いのちの大切さを考え、深める機会となった。

【教師の振り返り】

- ・生徒がプリントに書いた言葉を読むのではなく、自分の言葉で意見を語っていたのがよかった。
- ・「〇〇さんの意見を聞いて、～～と考えました。」といった発言を聞くことができたので、互いの考えを聞いて、自分の考えをより深めていると感じた。
- ・自分の意見に迷いがある子がいたので、どんなところで迷っているのかを聞き出し、全体に共有して考えさせると、より深まったと思う。



**自分の意見を言う**  
 ↓  
**友達の考えや生き方に  
自分の意見が影響する**  
 ↓  
**友達のためになってよかったな。  
また勇気を出して言ってみようかな。**  
**= 利他共生**

